

最新の科学の下でのジェンダー平等

いしかわ やすひろ
石川 康宏

(神戸女学院大学名誉教授)

「男女」の性から無限の性へ

ジェンダー (gender) というのは、もともと言語学の世界で「文法上の性」を表した言葉です。たとえばフランス語が月 (la lune) を女性名詞に、太陽 (le soleil) を男性名詞にするといった具合に、世界には名詞に性をあたえる言語が少なからずあります。その性はもちろん月や太陽が最初からもっているものではありません。人間が勝手に与えたものですから、人間の都合や合意で変更が可能なものとなっています (実際の変更はけっこうな社会的混乱を

引き起こしますが、実例あります)。この点に注目したフェミニストが、実際の人間の男性と女性の関係も「文法上の性」と同じように、人間の合意によって変更できるはずだと考えて、それを表現する言葉として使用したのが、今日のジェンダー用語の始まりです。ここから生物としての男女の性差をセックスと呼び、社会的な権利の性差をジェンダーと呼ぶといった用語法も生まれてきました。

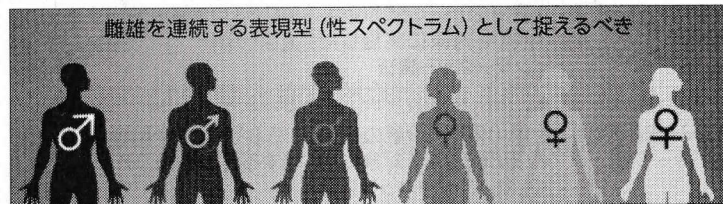
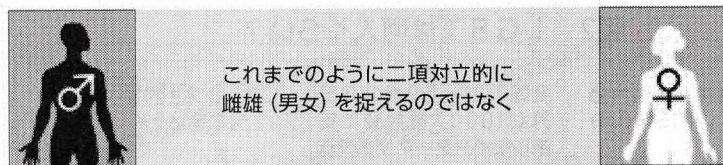
それ以前に、人間の科学は家族や夫婦、パートナーのあり方が歴史的に変化することを明らかにしていましたから、これはそれにキャッチーな言葉を与えたという出来事でした。

た。それによって「男女の平等」を「ジェンダー平等」と言い換える人たちが増えたわけですね。しかし、性についての科学の発展は急速です。人間の性が「男と女」という2つだけのものではなく、典型的な男から典型的な女まで、色彩のグラデーションのように無限に多様であることがわかってきたのです。それを性のスペクトラムともいいます (図表1)。スペクトラムというのは、ものが曖昧な境界をもつて連続していることを指す言葉です。

マイノリティの性も自然な性

最近では選挙の際にもLGBTの権利の尊重が大きな話題とされ、LGBTQという言葉もよく聞かれるようになりました。

これらは性的指向 (どのような性に恋愛感情をもつか) や性自認 (自分の性をどう理解するか) を基準にマイノリティの性を分類した用語で、



【出所】科研費・新学術領域研究 (平成29~33年度) 「性スペクトラム 連続する表現型としての雌雄」より。

Lesbian (レズビアン、女性同性愛者)、Gay (ゲイ、男性同性愛者)、Bisexual (バイセクシュアル、両性愛者)、Transgender (トランスジェンダー、性自認が出生時に割り当てられた性別と異なる人)、Queer (クイア) や Questioning (クエスチョニング) の頭文字をとってつくられた用語です。性的マイノリティの総称として使われることもあります。

Qの「クイア」は「不思議な」とか「奇妙な」といった意味で、もとは同性愛者を侮辱する言葉でしたが、現代ではマジョリティ以外の性を包括する用語としても使われています。「クエスチョニング」は、自分の性のあり方がわからない人、特定の枠に属さない人を指す言葉です。

先の性スペクトラムの研究は、こうしたマイノリティの存在が、人間

社会にとってごく自然なものであることを明らかにしました。人の性は男と女という2つの種類だけからなり、それ以外の性は「病気」や「異常」なのだという理解の誤りは、現代の科学からみてきわめて明快だということです。

無限の性の平等に向けて

こうした研究の深化や社会の理解の広まりにつれ、婚姻や家族についての制度も変わってきました。1989年にはデンマークが同性パートナーを婚姻に準ずるものと認めるパートナーシップ制度を初めて導入し、2001年にはオランダが初めて同性婚を合法化しました。2011年に国連総会で「性的指向と性自認に基づく人権侵害と暴力を終わらせるための共同声明」が85か国の賛

図1 性スペクトラムの概念

図2 LGBTは何人くらい？

日本労働組合総連合会 (連合) (2016年6月)	全国の20～59歳の有識 男女1000人を対象に実 施したインターネット調査	LGBT等(性的マイノリ ティ)当事者は8%
電通ダイバーシティ・ラボ (2018年10月)	全国の20～59歳の個人 6万人を対象に実施した インターネット調査	LGBTQ+層に該当する 人は8.9%
株式会社LGBT総合研究所 (2019年4月～5月)	全国の20～69歳の個人 42万8036人を対象に実 施したインターネット調査	LGBT・性的少数者に該 当する人は約10.0%

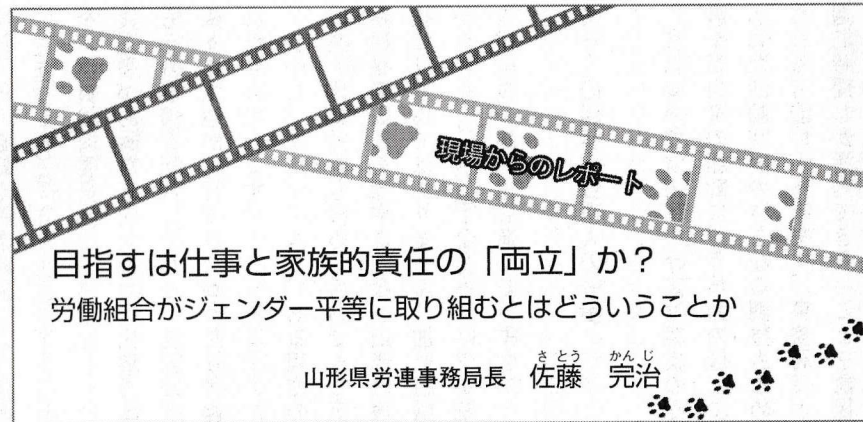
[出所] 労働者教育協会・ジェンダー問題連続研究会(第3回、2022年4月23日)
坂井希氏報告「LGBTをめぐる日本の政治状況と政策課題」資料より。

成で採択されたのは、そうした理解の急速な広がりを示すひとつの指標といえるでしょう。

したがって、いまや「ジェンダー平等」は、「男女の平等」を重要な要素としてふくみながらも、それにとどまることなく「あらゆる性の平等」を追求するものとなつていま

す。
デンマークの政府には平等大臣という役職がありますが、この大臣の依頼にもとづいて、はたらくLGBT約1400人にアンケート調査が行われました(2019年8月発表)。そこで78%の当事者が職場の幸福度が高い、69%の人が職場でLGBTを隠していない(カミングアウトしている)と回答しています。デンマークは政府がLGBTへの正しい理解を拡げる「プライド月間」をもうけていますが、そうした努力の成果はここまで来ているというこ

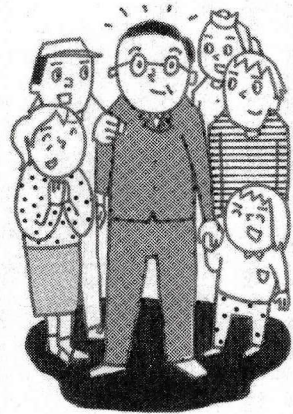
とです。この数字を見た平等大臣は、当然のことながら、まだ31%の人がカミングアウトできていない現実の改善を課題にあげていました。さて、みなさんのまわりの状況はいかがでしょうか？ 日本でもおよそ10人に1人が性的マイノリティと回答していますが(図表2)、それをカミングアウトしても何の不利益もこうむることのない職場や地域となつているのでしょうか？ 「ジェンダー平等」が問いかけるのは、いまやそういうレベルの問題になっていま



●子育てしながら事務局長の任に

私は現在54歳です。山形県労連の事務局長になってから29年が経過し、2017年9月から事務局長になりました。その直前に、長い不妊治療の末の妻の妊娠がわかり、いろいろ議論して結局私が子育てをしながら事務局長の任に当たることになりました。

妻は山形市近郊の民医連の診療所で医療事務をしています。この診療所の方です。正規職員である妻は、週



うち2日から3日は残業になり、帰宅が7時過ぎになることもしばしばです。月のうち2、3回は半日の土曜出勤があります。若干の持病があり、仕事のない土日や祝日は少し多めの休養が必要です。コロナ禍にあつて、医療従事者である妻の労働をサポートすることも私に期待されていると思いま

●ケアレス・マンでは許されない

私の息子は現在4歳4カ月です。保育園に行っている時間以外は、大人の目と手がまだまだ必要です。その役割の大半は私に課されています。ケアレス・マンでいることも、「時間無制限な事務局長」でいることも許されませんでした。

こうした状況は事務局長に立候補する前から分かっていましたので、私の勤務・活動は週35時間程度にとどめる